Sagami Women's University

もっと知りたい！
地域クリエーション学科 **Q&A**



2026.10.22



学外で学ぶ機会が豊富！具体的には？

フィールドワークや学外に出る授業として、「地域クリエーション学実践」「ライフデザイン」（１年）、「地域資源発掘活用演習」（２年）、「インターンシップ」（２年、３年）、一部の「ゼミナール」「卒業研究」（３年、４年）などが挙げられます。これらの授業では、実際に現地を訪ねてヒアリングをしたり、現物を見たりすることにより、その地域で眠っている地域資源を発掘し、それを利活用するとともに、その資源にまつわるストーリーを作って発信する体験をしていきます。

「地域クリエーション学実践」では大学周辺、相模原市内を日帰りで各１回（実験実習費で負担）と、学生が選択するコースに応じて２～４回程度学外に出ることが想定されています。2026年度については、5月13日に大学周辺、28日に相模原市立博物館と上大島キャンプ場を訪問しています。

学生が選択するコースに関しては、今年度、総務省の「ふるさとミライカレッジモデル事業」に２件採択された（単年度、女子大では本学のみ２件採択、鹿児島県南九州市、富山県氷見市）ほか、農林水産省の補助事業に１件採択されている（2027年度まで、長野県生坂村）ことに加え、受入れ地域の自治体、ＮＰＯの予算で三重県熊野市、福島県矢祭町が学生の受入れをおこなってくれますので、入学者全員が通年で１～４回、学生は旅費負担なし（食費など個人的経費は自己負担）で実習に出ることになりました。生坂村、矢祭町が２～３日の日程で２回、熊野市が１週間の日程で１回、氷見市が１週間の日程で２回と都内での活動２日、南九州市が計４回20日間となっています。

ただ、来年度以降は、獲得できる補助金次第ですので、今年度のように全員が泊まりで実習に行くことは難しいと考えています。日帰りで２～３回、近隣（神奈川、東京、静岡、山梨あたり）に行く形のものが大半になるのではないかと予想しています。しかし、現在も教員や先輩学生たちがこのような外部資金獲得に向けて努力をしています。結果がわかり次第、大学から広報していきます。

授業以外にどのような活動をしている？

学年にもよりますが、１，２年次には、多くの学生が週４日程度は登校し、15コマ前後の授業を履修しています。授業は1コマあたり100分ですので、１日あたり3コマ、計5時間の学習し、５限（18時20分終了）後、クラブ活動に参加したり、アルバイトをおこなったりする学生がほとんどです。また、より多く地域で課外活動をしたい学生はる地域協働活動に参加する学生も少なからずいます。



文系だけど理系の科目がある！？

調理学や食品衛生、公衆衛生などを学ぶ際に生物学や化学の知識が必要になりますし、第３級陸上特殊無線技士の資格取得をめざす際に物理学の知識があると理解しやすいです。

2027年度入学生については、全員が入学前教育プログラムを利用できるように準備をしました。費用は１年次の実験実習費に組み込んでいます。このプログラムは入学初年度８月末まで利用できるので、入学前のみならず入学後も授業の履修時に学習が必要だと感じた際に、わからない事項を確認することができます。確認問題と教材をフィードバックしながら苦手分野や未学習領域を克服することが可能です。教員が単元単位で必要な分野、領域を指定しますので、丁寧にフォローをできるような体制が整っています。

理系の人も充実した学生生活！

理系出身の学生でも、法律学や経済・経営学、観光学など、高校では学ばなかった分野の科目も必修科目として置かれています。また、理系出身だからこそ習得済みの知識を活かして、調理上の工夫や衛生管理の背景などを深く学ぶことができます。

Q＆Aは随時更新予定です！お気軽にお問い合わせください！